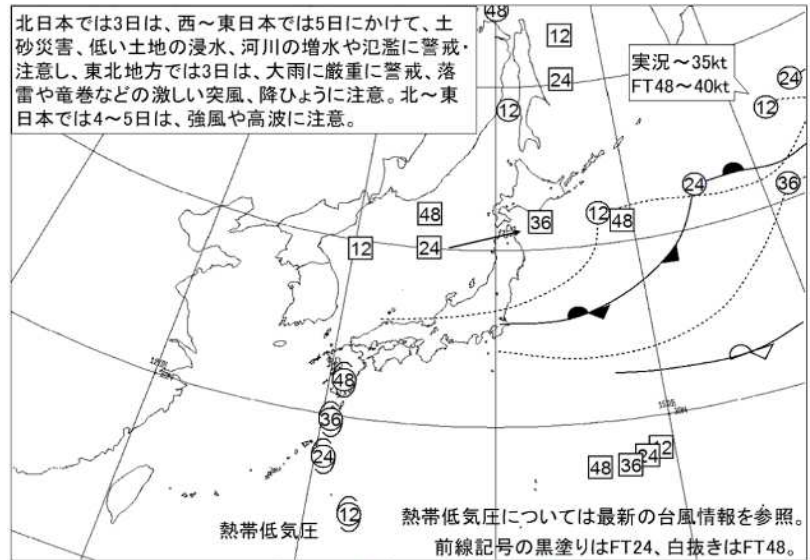


1. 実況上の着目点

- ① 前線が日本海西部から北海道地方を通り日本の東へのびている。北海道付近には前線上の低気圧があって東進。東北地方から北陸地方では前線近傍で非常に激しい雨を解析し、発雷を検知し、竜巻注意情報を発表。500hPa 5700m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフが沿海州付近を東南東進。
- ② 熱帯低気圧が日本の南を北上。
- ③ 上層寒冷低気圧(UCL)が南西諸島付近をゆっくり西進。また、高気圧が小笠原近海付近でほとんど停滞。500hPa 5760～5880mのリッジ対応の高気圧が中国東北区を東南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の北海道付近の低気圧は東進し日本の東へ遠ざかり、4日夜までには不明瞭化する。前線は4日朝にかけて本州南岸付近へ南下する。また、1項①のトラフが、3日は北海道地方を通過し、4日朝にかけて千島近海へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気、日中の昇温に上空の寒気の影響が加わり、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降る所がある。東北地方と北陸では、3日朝にかけて線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。北～西日本では3日は、東日本では4日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒・注意し、東北地方では3日は、大雨に厳重に警戒、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の熱帯低気圧は台風が発達し、3日は沖縄東方海上を北上し、4日夜には九州付近へ進み、その後、5日夜にかけて本州の南岸を東進し、日本の東へ進む見込み。熱帯低気圧や台風に向かう850hPa相当温位 345K以上の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。東～西日本では4～5日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、熱帯低気圧周辺で、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本では4～5日は、強風やうねりを伴う高波に注意。
- ③ 1項③の高気圧は、4日にかけて小笠原近海に留まる。また、日本海付近の高気圧は4日にかけて日本の東へ進む。前線や熱帯低気圧による降水の影響が無い地域では、これらの高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考だが、熱帯低気圧の進路や降水域の広がりには、不確実性が大きいことに留意。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕 ① 雨量(06時からの24時間)：東北・関東甲信120、北陸・東海・四国・九州南部・奄美100mm。② 波浪(明日まで)：西日本から南西諸島の広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：東～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」と「発達する熱帯低気圧に関する総合情報」を5時頃に発表予定。